

会 議 録

1 会議名

平成29年度第15回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成30年度地域活動支援事業（公開）

【自主的審議事項】

直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

平成30年3月23日（金）午後6時00分から午後7時24分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、
青山義一、磯田一裕、今川芳夫、久保田幸正、小林克美、田中美佳、
田村雅春、中澤武志、町屋隆之、丸山朝安、水澤敏夫（欠席3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：荒木係長、千田主事

8 発言の内容

【荒木係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：増田副会長、町屋委員に依頼

議題【協議事項】平成30年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・資料No.1「平成30年度地域活動支援事業 直江津区の採択方針等について」、
資料No.1 参考資料「平成30年度地域活動支援事業 直江津区 審査スケジュール
(案)」に基づき説明

【青山恭造会長】

平成30年度はヒアリングを開催せず、提案書の書類審査と文書での質疑応答を行い、全体協議を2回行い、提案内容を良く理解した上で丁寧な審査を行っていく。

本日は、スムーズな審査を行う上で審査スケジュールも含め、必要なことがあれば御意見をいただきたい。

【田村委員】

提案書に対して質問票を事務局へ出すかと思うが、その回答はいつ頃私たちの手元に届くのか。

【荒木係長】

6月1日（金）頃送付予定である。

【町屋委員】

提案に対する全体協議を2回開催していただく予定となっており非常にありがたいと思っているが、何故、回答を受けてからの全体協議から採点まで1週間ほど空くのか。平成29年度はヒアリングを行っているが、それでもヒアリングから採点まで3日で行っている。丁寧に行うことは大事だが、スムーズに採択するためにも2回目の全体協議から各委員が採点票を提出するまでの期間を短くしても良いのではないか。

【青山恭造会長】

6月5日（火）の全体協議の際、再質問が出る可能性があり、それに対応できるように1週間空いているのだと思っている。

【荒木係長】

先回の会議で「再質問はなし」ということで決まったかと思うが、協議をした上で何か不明なことが出てくれば対応したいと思い1週間空けさせていただいた。説明不足で申し訳ない。

回答を受けてからの全体協議で再質問がなければ繰り上げていきたい。

【田村委員】

前回の協議会で、「再質問はしない」ということではなく「再質問はしても良い」ということにしたのではないか。

【青山恭造会長】

「基本的に再質問はなし」ということにしたが回答の中身を見て判断したいと思う。

【増田副会長】

回答を受けてから事務局で精査し、場合によっては回答の書き直しを提案者へお願いすることがあるかもしれない。きちんと事務局で精査した上で委員の手元に回答が来ると思うので再質問はないという想定でスケジュール案を作成していると思う。

【磯田委員】

ヒアリングを止め審査を短縮しようという前提で動いてきたのに、採択の決定が平成29年度よりも1週間延びるのは最初の主旨から外れてくるのではないか。平成30年度に追加募集があるかどうか分からないが、追加募集の採択審査が遅くなり事業も遅れる可能性もあるので、なるべく早めに進めたほうが良いのではないか。

先ほどの増田副会長の意見でもあったが、事務局が質問の主旨を提案者に伝え、きちんとした回答を得られるのであれば再質問はいらんと思っている。

【青山恭造会長】

提案者からの回答を受けてからの全体協議で何も問題がなければ前倒しで採点ができると思うので、全体協議の際に再度スケジュールを考えれば良いのではないか。

【町屋委員】

先ほど期間を短くしていただきたいと言ったが、審査を行っていく上で懸念が出た時に対処できなくなるのであれば事務局の案どおりに進めていただき、全体協議に時に考えるということで良い。

【増田副会長】

事務局が言ったとおり、6月5日（火）に予定されている全体協議の際に、特に問題がなければ次の日程を繰り上げすることができるので、様子を見て繰り上げるということではどうか。

【青山恭造会長】

では、そのように進めさせていただいてよろしいか。

（異議なし）

では、事務局のスケジュール案で進めさせていただく。

次に【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

今年度は、直江津のまちづくりにおける課題について、今後、何を優先して審議していくべきかを班ごとで協議し、その結果を資料No.2に反映させていただいた。

本日は、今後の進め方について具体的に協議していただき、いろいろな御意見をいただきたいと思っている。

【青山恭造会長】

先回は3班に分かれて協議を行っていただいたが、これから班毎に分かれるか全体で協議するかを決めていただきたい。

【増田副会長】

先回1度だけ話し合いを行ったが、その後どのように議論を深めていくかということを決めていかないと方向性が見えない。先回の話し合いだけでは深まっていないので、少なくとももう1、2回は班毎で協議したほうが良いのではないかと。再度班毎に話し合いを行う前提で、その先どのように進めて行くかということを考えていただきたい。

そして、全体で意見の擦り合わせをしていないので、班毎に出た意見について全体で擦り合わせをするという考え方も出てくる。全体で擦り合わせをしたものを地域の方々に示し、一緒に考えていくという進め方もある。

今後の進め方について意見をいただきたい。

【町屋委員】

私としては、資料No.2に挙げられている項目について皆さんの意見を聞ければと思っている。

【小林委員】

班毎に話し合いを行わず、全体で協議をすれば良いと思う。例えば1班で出た意見で「①駅前 JT跡地や鉄道の町等について」とある。JTの跡地については来月以降に工事が始まり、今後、粛々と進められると思うが、それに対してどのように協議を進めて行けばいいのか。鉄道の町についてもPRしていこうと思うが、そのために何をしていくのかということまで地域協議会で踏み込むのか。

具体的なものがないと、何をどのように話していけばいいのか分からない。

【田村委員】

資料No.2で示されている意見の中からテーマを絞り、それに対して話し合いを行い、

最終的にどこまで持って行くかを検討したほうが良いのではないかと。

【青山恭造会長】

地域協議会で出された意見だけではなく、「話し合う会」で住民の皆さんから出していただいた意見も取り入れて進めて行きたいと思っている。

【小林委員】

私は地域の方達と話し合いの場を設けるのではなく、直江津地域で何ができるのかを地域協議会で話し合い、それを行政に提案していくという方向性で進めれば良いのではないかと。地域協議会と行政のキャッチボールができるような方向性を持って行かないといけないと思っている。

【町屋委員】

私は先ほども申したとおり、資料No.2で示されている意見に対して一つひとつ協議していき、私たちがすべきことは何なのかを話し合っていきたいと思っている。

行政に提案していくことも大事だが、私たちに何ができるのかを議論することも大切だと思う。議論をすることによって、直江津のまちづくりについて提案が上がってきた時の私たちの判断材料となるので、資料No.2にある意見に対して一つひとつ協議していけば意味のある時間になるのではないかと。

【磯田委員】

地域協議会としてどういうものを提示していくべきかを考えると、一つひとつのプレーヤーではない我々は、直江津のまちづくりのグランドデザインをまとめていくプロセスとオーソライズの仕事が問題だと思う。

例えば直江津駅前をどのように考えていくかとなった時に「鉄道のまち」というキーワードはあると思うが、果たしてそれが直江津の未来のために、それを使って何かしていかなくてはいけないのかということもある。

一つひとつを深掘りしていくのは、それに注力できる市民団体や思いが深い人たちが検討していかなくてはならないが、直江津エリアをどのようにしていくかという話を皆さんで考える場所を作るのが地域協議会の役割だと思っている。たくさんアイデアが出ているが、例えば直江津駅前だったらこれをしていかなくてはならないといった市民と共有できる提案をしていくプロセスを作ることが大事だと思っている。地域協議会だけでやるのは無理があるので、行政と一緒に作りあげていくという形を作らないといけない。一つひとつを詰めていくというよりは全体像を考えていくことが我々に課せられ

ている使命なのではないか。

【中澤委員】

各班の班長から当日の班毎の話し合いの際の雰囲気等はどうなったのか、ということ
を伺いたい。そして、各班の共通項を見出すことで、まず何を討議していくかというこ
とが見えてくるのではないか。

【青山恭造会長】

中澤委員の意見のとおり進めても良いか。

【増田副会長】

平成30年度以降、自主的審議事項をどのように進めて行ったら良いのかということ
を話し合い出来ればと思っている。そして、4月と5月は地域活動支援事業の審査が入
ってくると思うので6月以降に「直江津まちづくり構想」をどのように進めて行ったら
良いのかという方向性を皆さんから考えていただきたいと思っている。

各委員、いろいろな意見を持っていて、それをまとめて進めて行こうという進め方も
あるし、プロセスを大事にすると、これが一番大事という共通認識を作り上げる中で行
政や地域の方々も含めて進めて行くという考え方もある。

本日は結論を出すという場ではなく、普段、皆さんから自由に発言していただく場が
ないので自由に発言していただき、次回以降に方向性が出せればと考えている。

委員一人ひとりから発言していただき、それをまとめずに終わりにしたいと思ってい
る。

【竹内副会長】

中澤委員の意見としては、各班長からの意見を聞きたいということだが、増田副会長
は、各委員から意見を聞きたいということだった。皆さんはどう思うか。

【町屋委員】

班毎で話し合った際に出た意見についておさらいをしなくてはいけないと思うが、そ
れが今なのかと思う。自主的審議事項について話し合う機会が6月になり、少し期間が
空くため、もう一度同じ話し合いをすることになるのではないか。そういうところを踏
まえて進めて行くべきだと考えると、中澤委員の意見を捉えたほうが私としては良いと
思っている。

【青山義一委員】

私個人の意見としては、もう一度班別で協議を行えば共通項も出てくると思っている。

なので、6月に再度班毎に協議をしたい。

【田村委員】

地域住民と行った話し合う会の時にも出ていたが、意見を言いつばなしで全く前に進んでいないという意見が多かった。中にはJ Tの跡地利用のように決まった案件もあるが、同じようにある程度の成果が見えるようなことをやっていかないといけないと思っている。少しでも進んでいるということを住民の皆さんが見て分かるようなことをするのが我々の役目だと思う。

【青山恭造会長】

進めて行くためにはグランドデザインを決めて、その目標に向かってみんなで考えていくやり方が一番だと思っている。

【小林委員】

進め方だけの話であれば、各班の意見が出ているので、全体で話し合っていたほうが、共通認識が取れて良いのではないかと。

【青山恭造会長】

私個人としては、先回までの協議を無駄にしたくない。

【磯田委員】

進め方も大事だが、どこに向かって議論していくのかというほうが重要だと思っている。少しでも前に進めるための具体的な案を思考して仕掛けていくのが最終目標なのか、全体の中でどういうことがあるのかということ整理して市民に提示していくのが目的なのか。あるいは、自主的審議の中で提案すべき目的を皆さんが持っているのではないかと。ということで増田副会長の意見に繋がったのだと思う。

皆さんが考えている自主的審議の先にあるもの、目標として掲げる自主的審議の結論をどういうふうに捉えているのかということをお聞きしたいし、議論したほうが良いと思っている。

【町屋委員】

各論より総論が大事だということだと思うが、進め方においては、私個人として班別協議は好きではない。だが、これだけの人数でスムーズに審議ができないというのであれば班別協議を否定しない。ただ、班別協議の回数を重ねるごとに進化させていくよりは、班別協議をやったら全体協議を行ったほうがありがたい。全体協議を行っていく上で全体の意見がミックスバランスされていくのであれば、どこかで見たようなものが出

来上がったとしても、それは私たちの意見なので良いと思っている。

【増田副会長】

全体協議を否定している訳でなく、段階を踏んでやろうということで理解していただきたい。

磯田委員が言ったことは、何のために自主的審議を行うのかという基本的なことをきちんと抑えておかないといけないということである。自主的審議というのは、地域の課題を自主的に話し合い、課題解決のための解決策を考えようということである。その先にあるのは、途中で行政の話し合いを行って解決できればそれで良いし、解決できなければ最終的に市長へ意見書を出すことになると思う。

要するに地域の課題解決のために地域協議会の皆さんで話し合ってください、というのが自主的審議である。その時に「地域の課題とは何か」ということを皆さんから共通認識として持ってもらい協議を進めていただきたい。共通認識を持った上で地域の皆さんにも地域協議会の考えを聞いていただき、確認を取りながら進めて行けば良いのではないかとと思っている。

【青山恭造会長】

6月以降、何度か班別で協議を行い、その後に全体協議で皆さんの意見を擦り合わせて進めて行けばいいと思っている。

【増田副会長】

ただ、いつまでも同じことをやっても仕方ないので、ある程度の時点で地域の皆さんへ成果を見せなくてはいけないと思っている。そう考えると、6月以降は月1回の協議会ではなく、2、3回行い、秋頃には結論を出さなくてはいけないと考えている。

【青山恭造会長】

6月に新水族博物館がオープンするが、年間60万人が来館すると言われている。もし、6月下旬にオープンするとなると月に10万人来館することになる。そこで何か問題点や課題が出てくるのではないかとと思っているが、それを見たいという気持ちもある。その時に再度班毎で話し合いを行い、出てきた問題点等を踏まえて協議したらどうか。

【中澤委員】

先ほども申し上げたが、各班が目指す方向がどの辺で一致しているのかを確認したい。

【磯田委員】

1 回だけの協議で資料No.2 のような意見が出たが、そこで出ていない議論もあると思う。

【小林委員】

先ほど、青山恭造会長から「新水族博物館がオープンしたら」という話があったが、平成30年度の上越市の予算を見ると、「まちづくり会社交付金事業」の中で「新水族博物館を核とした地域活性化事業」に3,610万円が計上されている。その内訳について担当課から来てもらい、ある程度の情報を聞いたほうが良いのではないかと。行政の考えを聞き共有しながら話し合いを進めて行くことも大事だと思っている。

そして「港湾振興企画事業」で「北前船に関する資源を活用した地域振興を図るため、北前船寄港の歴史を周知し、市民の故郷への誇りと愛着を深めていく契機を繋げるとともに関係自治体との関係を深め、当市の特性を生かした土地間交流の実現を目指す」という事業に837万3,000円が計上されている。それに対しても結構な金額が付いているので、その情報も含めて教えていただきたい。

【青山恭造会長】

では、中澤委員から出ていた班毎の意見についてだが、本日、班長がいない班もあるので、発表できる方がいれば発言していただきたい。

【田中委員】

当日は出席された委員も少なく、私の班は4名しかいなかった。少ない人数での話し合いだったので、私たちが挙げた意見とは別の意見を皆さんは持っているかもしれない。そういう状況で意見の共有と言われると少し疑問にも思う。

【磯田委員】

私は1班だったが、少子高齢化や人口減、交通渋滞という社会的問題とエリア毎の特性があるだろうと思っている。直江津は過去の中心市街地活性化計画において4つのエリア毎に魅力を高めていくという内容になっていたことから、エリア毎の特性を理解しつつ、いろいろな課題を踏まえて検討をしていったほうが良いのではないかとということになった。エリアをある程度絞ることによって、そこに住んでいる住民や勤務している人たち、まちづくりで頑張っていたらいている人たちが、より関われるようなことを提案していくというほうが、より具体的に市民の人たちに応えられるのではないかと。ところから、資料No.2のような提案をさせていただいた。

【田村委員】

私は3班だったが、通学路の問題について意見が出た。五智の通学路が狭いということと雁木の問題もあった。ただ、どのように解決していくかというところまでは掘り下げなかった。

【竹内副会長】

私は2班だったが、平成30年度から介護保険制度が変わるが、2025年には団塊の世代が後期高齢者になるという2025年問題もあることから、今後、各町内によって見守り体制がどのように変わっていくのかということについて話し合いを行った。

そして現在、身近な問題として新水族博物館がオープンするので、厚生北会館の跡地や海浜公園近辺も一緒に考えていきたいとか、直江津学びの交流館を、もう少し利活用しても良いので、市民にアピールして直江津学びの交流館を中心として考えていきたいという意見も出ていた。

【青山恭造会長】

それでは、以上のような話も含めて6月に再度班毎に協議していただき、方向性をはっきりと決められるように話し合いを進めていきたいと思う。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・次回協議会の事務局案：4月17日（火）
- ・次回の協議内容は旧直江津銀行の管理の在り方の諮問を予定している

【青山恭造会長】

— 日程調整 —

- ・次回協議会：4月24日（火）午後5時から
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。